

令和5年度「知」の集積による産学連携推進事業のうち バイオエコノミー推進人材活動支援事業における取組・成果概要

〔代表機関名〕 TOPPAN株式会社

〔事業実施責任者（プロジェクトリーダー）〕 永野 武史

〔研究開発プラットフォーム名〕（お-38）「熱中症予防対策商品による地域産業創出」研究開発プラットフォーム

1 概要

(1) 研究開発プラットフォームの概要

「熱中症予防対策商品による地域産業創出」研究開発プラットフォームは、農産物の持つ機能性を新たな価値とした商品開発及びその製造・流通・販売による地域産業創出に向けたビジネスモデルの構築を推進する。

これまで、本プラットフォームのメンバーを中心に、「ハッサクプロジェクト」として、東洋大学の機能性研究をシーズとし、柑橘に含まれる機能性成分を抽出し、加工用原料とする加工技術の開発に取り組み、その技術を確認している。

(2) 本事業活用による効果

事業実施前

- ・マーケットニーズやターゲットを検討しつつ商品開発及び事業モデルの構築に着手した状況。
- ・最終製品製造に至る各工程の連携体制を構築した状況。
- ・地域及び関連プレイヤーへの情報発信に着手するとともに、提携推進体制を構築した状況。
- ・地域の共感を得た参画プレイヤーの拡大に着手した状況。

バイオエコノミー推進人材活動支援事業

事業実施後

- ・機能性成分による機能性価値を踏まえたターゲットを明確化した（具体的な課題／購買決定要素／望まれる商品／etc）。
- ・参画機関の役割を明確化した結果、今後の商品開発、ビジネスの展開に向けて加速することが見込まれる。
- ・社会受容促進の取り組みを通じて、地域に対しより多くの情報発信を行った結果、地域一体となった取り組みへの拡大に繋がった。



商品化・事業化モデルの検討を行い
作成した取り組み紹介資料



取り組み紹介動画（Youtubeにて公開済み）
「ハッサクプロジェクト 2024」

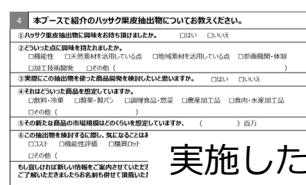
2 事業概要と成果

(1) ビジネスモデルの構築・検証

- 研究開発プラットフォームの関係者会議を毎月実施し、ビジネス・事業化に向けたモデルの検討を行った。
- 展示会や様々なイベントにてアンケートやヒアリングを行い、ビジネス・事業化モデルの検証を実施した。
- 有識者（マーケティング専攻教授）への事業化相談を行い、構築したモデルやその個々の要件について、より深掘りするべきポイントを明確化した。



ターゲットとその関連要件の分析



実施したアンケート例

ターゲットとマーケットニーズを明らかにし、目指すモデルに落とし込みを行った結果、各機関の役割も明確化され、今後の事業化の加速が期待できる

(2) 事業内容や成果等の情報発信とその効果

- 地域の関係機関への情報発信、地域社会からの共感獲得に向け、シンポジウムを開催するとともに、地域イベントや展示会に出展した。
- 検討した事業化モデルを踏まえた、新たな外部向けの情報発信動画を制作した。



シンポジウム
令和6年2月29日開催

今後、商品開発に関わる連携企業や地域の農業生産者・食品メーカー等の関連企業等、幅広く情報発信を実施して、本事業によって得られた新たなネットワークによる商品展開や事業の拡大が期待できる

3 今後の展開

今後、より地域を中心に「ハッサクプロジェクト」への理解や共感を得るために、今回制作した動画の配信を行うなど、情報発信を強化していく予定である。地域バイオコミュニティの更なる拡大に向けて、今回実施したシンポジウムについても、第二弾、第三弾を開催し、様々な農食事業を中心に、研究者、事業者、周辺事業者及び市民といった方々に多く参画してもらえる地域共創モデルを目指す。

また、令和6年夏には地域の6次産業事業者により、本機能性成分を用いた商品を販売予定である。今後、更なる商品展開の拡大に向け、食品メーカーや食品商社との連携を推進していく計画である。



問合せ先

TOPPAN株式会社

情報コミュニケーション事業本部 ソーシャルイノベーションセンター 担当者：永野武史
(TEL : 080-2381-4535 / mail : Takeshi_1.nagano@toppan.co.jp)